

No.19 東日本大震災から 10 年。 “配慮が必要な食事”にも備えを

1- 非常食の備え、できていますか？

甚大な被害をもたらした東日本大震災から 10 年が経とうとしています。震災をきっかけに、備蓄や非常食を準備するようになった方も多いのではないのでしょうか。災害時、やわらかくする必要のある介護食や離乳食、アレルギー対応食など“配慮が必要な食事”は、とりわけ確保が難しく、事前の備えが重要です。“配慮が必要な食事”の備えについて、キューピーが関わる取り組みをご紹介します。

2- そのまま食べられるカップタイプ 賞味期間延長で、備蓄もしやすく

災害時はライフラインの供給が止まることも。食器に移し替える必要がなく、温めずそのまま食べることができるベビーフード「すまいるカップ」シリーズや、介護食「やさしい献立」シリーズのカップタイプは、日常使いはもちろん、非常食としても便利です。



Photo: ⑤やさしい献立「やわらか親子丼風」

⑥すまいるカップ「北海道コーンのチキンドリア」

今年の 3 月にそれぞれシリーズを刷新、賞味期間を 12 カ月から 18 カ月に延長し、さらに備蓄しやすくなりました。

3- 活用方法を提案

いざ準備をしようと思っても、「何をどれだけ準備すれば？」と頭を悩ませる方も多いはず。キューピーは、備蓄・非常食としての介護食の活用方法やお役立ち情報などを病院・施設向けや在宅介護向けにまとめ、ご提案しています。

4- 被災地支援にも活用

東日本大震災をきっかけに公益社団法人 日本栄養士会が「日本栄養士会災害支援チーム (JDA-DAT)」を立ち上げ、以降各地の大規模災害で活躍しています。JDA-DAT は、災害発生時に迅速に被災地の医療・福祉・行政栄養部門と協力して「特殊栄養食品ステーション」を開設し、状況に応じた細かな栄養・食生活支援活動を行っています。とりわけ乳幼児や高齢者を抱えたご家族に向けては、アレルギーに配慮した食事ややわらか食など、きめ細かい支援が必要になります。その災害備蓄品に、キューピーのベビーフードと介護食（一部）が採用され、2 月 23 日以降、都道府県栄養士会に配備されています。



Photo: 採用された対象商品例
※初回採用商品。状況に応じて現地の管理栄養士によりアイテム入れ替えあり



キューピー株式会社
食と健康 推進プロジェクト
岡埜 容明

Comment - “必要な人”に“必要な物”を

当時仙台支店に所属していた私は、仙台で被災しました。数日後には支援物資の供給を開始し、従業員がある避難所にベビーフードをお届けした時のこと。一人の女性が「たくさんの物資が届きましたが、アレルギー持ちのこの子は食べられなかったのです。キューピーのアレルギー配慮商品のおかげで、ようやく食べさせてあげることができます。本当にありがとうございます」と感謝の言葉を口にされました。「ただ届けばよいわけではない。必要な人に必要な物を届けることが大切なんだ」と痛感した瞬間でした。